

No.139

# 公民館だより

平成22年6月

宮津市字由良  
由良の里センター内  
由良地区公民館

## ソメイヨシノはつくられた

由良地区公民館長 枝川隆亮

今の日本は低温列島といえる。

4月に入っても、日本各地で雪が降った。丹後でも強い南風がよく吹き、4月後半になりようやく安定し暖かくなってきた。

駅前前の桜並木もいつもと何ら変わりなく満開の花で存在感を示した。

公民館長を11年間就任され地区に多大な功績を残され、桜をこよなく愛された四方寿朗先生が亡くなりました。昭和63年ごろ駅前前の道路改修計画に反対され住民の多くが存続を希望した結果残された。満開の桜が喜びを表す時期に

小学校・中学校の入学式が行われ、児童は新しい環境にも慣れ運動に勉強に頑張っています。

さて、ソメイヨシノの話しましょう。春といえば桜を連想する。国民にこれほど愛される花は他に無い。「春だなあ」「きれいです」と誰しも感動する。

美しいピンク色の花が一斉に咲き、一斉に散ってゆくその美しさとはかなさは日本人の心を魅了してきました。実は、このソメイヨシノは江戸時代末期、新たに作られた桜と言われています。最初に生まれたた一本の木が人の手で増やされ続け、

今では日本の桜の木の八割を占めるまでになった。どのようにしてソメイヨシノは日本中を埋め尽くすようになったのか。実はソメイヨシノは、たった一本の木から接ぎ木され増え続けたクローン（同じ遺伝子情報を持つ）植物である。ソメイヨシノの発祥の地とされる東京都豊島区駒込、江戸末期この地は染井と呼ばれ植木職人が多く住む村であった。この村の一人の植木職人によってソメイヨシノは作り出されたと言われています。

当時江戸では、新しい園芸品種を作り楽しむ風潮が広がっていった。そんな中、職人は新しい桜を作ろうと様々な桜の掛け合わせを繰り返していた。職人が注目したのは大きな花が咲く大島桜と葉っぱが出る前に花が満開になるエドヒガシでした。

この二種類の桜を受粉させ種を作った。その種をまき花が咲くのを待ちました。十年後たたくさん咲いた桜の中に、たった一本

だけ今まで見たことのない見事なきれいな桜がありました。大きな花をつけ、咲き方も散り際も美しい桜、ソメイヨシノの誕生です。この一本の木を何とか増やしたい。しかしこの木と同じものが作り出せるかどうかかわからない。そこで職人が用いたのが古来から伝わる「接ぎ木」という技術でした。この方法は今も受け継がれています。「接ぎ木」によって早く大量に増やすことが出来ました。こうしてソメイヨシノは最初に生まれた一本の木から全国に広がっていきま

した。現在あるどんな事柄も先輩たちが努力し後世に残されたことを知ると、桜の見方も違ってきました。ソメイヨシノが日本各地で植えられたのは、戦後から昭和30年頃にかけてとされています。毎年駅前通りの桜が満開になると四方先生の功績を偲ぶことと思えます。

(引用・参考文献／広辞苑・NHKテレビ)

# 行事報告

主事 磯田 充亮

◎二月二十一日(日)

## 自治学級

今年是由良自治連合会と共催で、大森・松原両市議会議員をお招きし、又、各種団体長の出席を得て「地域会議」を同時開催しました。

主な内容は次のとおりです。

大森市議会議員から

- 一、財政再建の現状について
- 二、住民の意識改革について
- 三、浄化槽設置と側溝整備について

松原市議会議員から

- 一、ゴミ問題について
  - 二、由良川河口の砂州問題について
  - 三、公募型公共事業について
  - 四、学童保育について
- 等、細部に亘り報告があり、その後質疑応答に入りました。主

な内容は次のとおりです。

一、小学校の再編について

行政側は方向は決めているが、住民の総合的な意見を聞いて方向を決めたいと言っている。先行き不透明である。住民全員で子供の将来を考えてほしい。

二、由良浜の侵食について

昨年も各省庁へ陳情に行った。原因が不明で対策に苦慮している。神崎側の砂州に川を一本掘り、砂を移動する計画をしている。

三、足湯設備の計画について

京都府の地域再生プロジェクトに応募し計画を認められ予算もついたが、予期せぬ問題が発生し、再度計画を練る予定である。

四、京都府立大学の学外演習について

最初は自治連合会を中心に地域で協力していたが、最近は一部の者が関わっていないのが事実です。大学側の活動を理解し、皆様のご協力をお願いしたい。等の質疑応答があり、さらに由

良川てんころレースの継続、光通信網の拡充、駅前通りの活性化等議論が繰り広げられました。

他に各種団体長から地域活動の実践報告を伺いました。

中には「良い話が出るが、誰がどのように取組むのか具体性に欠ける」と、厳しい意見もありました。

今後は多くの意見を取り入れ地域の課題を解決し、地域の活性化を図り活気ある住環境を作ることを確約し、自治学級及び地域会議を終えました。

◎四月二十九日(木)

## 第四十四回由良岳登山

当日は朝方の雨もやみ雲一つない青空に変わり、予想外に多くの参加者を迎えて恒例の由良岳登山を開催することができました。

地元や福知山、舞鶴、野田川等遠方から親子連れ、登山グループ等百八十七人(登山証明書発行数)が参加されました。

中には宮津から来られた八十四歳の男の人や、福知山から来られた一歳八ヶ月の坊やを連れて家族が山登りに挑戦しました。参加者は緑がまぶしく輝いた山道を歩き、春を満喫しました。東、西峰には案内板やベンチが設置され、尾根途中には山小屋が建てられ由良岳に生息している鳥、昆虫等の動物・植物の案内板が設置されています。又、尾根の木立には名札が取り付けられ、由良岳は新装されています。

今年も四月十六日、小雨の中、由良観光組合等の方々に倒木の除去、草刈等の山道の整備及び炭焼窯跡地等四ヶ所に地点を標示した柱の設置をお世話になりました。

山道の整備に従事された方々や多くの参加者のご協力を得て、今年も無事終了することができました。感謝致します。ありがとうございました。

追悼

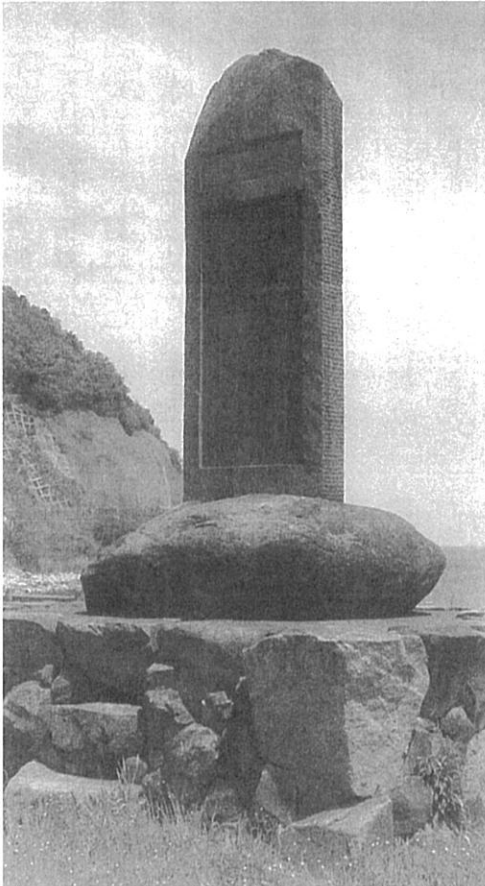
元由良地区公民館長四方寿朗先生は、昨年末から体調を崩され、本年二月から由良を離れ入院療養を続けておられました。ご家族の手厚い看護も空しく、去る五月三日永眠されました。享年八十五歳でした。

四方先生は、昭和41年から昭和52年まで公民館長として地域文化の継承、スポーツ振興にご尽力されました。

先生が復活された由良岳登山は今年で44回を迎え、他市町からも参加があり地元住民のイベントとして定着しています。

海・山・川の美しい自然に恵まれた由良で過ごされた50有余年は先生の思い出と共に、残された私たちの故郷としていつまでも美しく平和であることを願って止みません。

故人のご功績は書き尽くすことが出来ませんが、心からご冥福をお祈り致します。



森鷗外「山椒大夫」文学碑

故 四方寿朗先生を偲んで

由良の歴史をさぐる会 飯澤 登志朗

去る5月5日、故四方寿朗先生の葬儀・告別式が厳かに執り行われました。

各方面の関係者や地元由良からも先生の死を悼み、多くの方々が最後のお別れに参列されてきました。

斎場正面に掲げられた在りし日の先生の遺影が私たちに何かを伝えている様でしたが、聞くところによると写真も額縁も自らの手作り、事前に準備されていた由、お聞きしました。

前号の「公民館だより138号」にお別れの挨拶が掲載され、僭越ながら私も先生に対し惜別の拙文を投稿しました。

前号では、先生が由良を離れるにあたってのお別れでしたが、またいつか再会出来る日を期待していました。

由良を離れられる当日も、地

区の皆さんが大勢見送りにこられておられましたし、先生も元気に声を掛けられ、自慢のカメラで逆に撮影される等、それが最後のお別れになるとは誰も思われていない風景でした。

今回は永遠のお別れであり、以降重複する点が多々あると思いますが、お許しください。

皆様ご承知のとおり、先生のご功績は何回繰り返しても書き尽くせるものでもありません。もう一度先生のご遺徳を偲び、ご冥福をお祈りいたします。

告別式に参列された方々は斎場ロビーに飾られた数枚の写真に懐かしく見入っておられました。

その写真は駅道の満開の桜並木です。下校途中の中学生の1人は現在40歳代になつていと

のこと。そしてお通夜の読經のあと、住職が語られた生前の先生との会話の内容にも「桜は満開の時より散り始めが一番美しい」。

あの美しい桜も昭和36年頃、道路改修工事計画で伐採の危機がありました。

先生は桜を守るため先頭に立つて強く計画の見直しを求められていました。その結果美しい桜が守られ、現在も美しく私たちを癒してくれています。

先生は由良地区で永年に亘り地域医療にご尽力賜りましたが、そのご多用のなか、昭和41年から昭和52年まで実に11年間由良地区公民館長として、地域文化の継承改革とスポーツ振興に務めてこられました。

また、由良の歴史をさぐる会長として、昭和47年から平成22年由良を離れられる最後まで由良に伝わる歴史を後世に残されるよう活動を続けておられます。

森鷗外「山椒大夫」文学碑は

その代表的なものであり、わが国に於ける物語として広く知られている安寿姫、厨子王ゆかりの由良地方の歴史的文化遺産を伝え、併せて観光文化の向上に寄与されました。

他にも由良郷土館の開設、郷土が生んだ名医新宮涼庭顕彰碑建立等、すべてに関わってこられたと言っても過言ではありません。

また記憶に新しい処では写真集があります。趣味を超越した見事な写真集であり、その発刊にあたり寄せられた中西夏江氏の言をお借りしますと『長年にわたる膨大な作品の中から選び抜かれ、収められた写真の数々はそのまま「丹後由良」の生活史の証言として、朝の光のように際やかにふくらんでいます。先生の作品に私達が魅かれるのは、単なる風景ではなく、自然と人間のいのちの尊さが生き生きと豊かに感じられることです。』一部だけを引用させていただきますが、先生が由良の自

然を大切にされたお気持が十分に伝わってくる写真集です。

去る二月、療養のため由良を離れるにあたり寄せられた文章には「縁があり、由良で最後の50年を過ごさせていただきました。海・山・川の美しい自然、四季折々に変化する風景、由良岳登山や運動会、敬老会、お祭り、文化祭、厄年や還暦の旅行、その度毎に受けた皆さんからのご厚意、思い出は尽きません。」と由良での生活、地域の皆さんとのふれあいを語っておられます。

また「自然も人の和も由良は素晴らしい良いところです。今後は更に地域独自の振興が肝心です。誰かが行動を起こさなければ何も始まらない。思い切つてあなたがその誰かになつてください。」と結んでありました。

先生との思い出、感謝の気持は地区の皆さん全員がこれからもずっと持ち続けていくでしょう。

最後になりましたが四方先生

の亡き後、不肖私が由良の歴史をさぐる会会長の要職を継ぐことになりました。全く想像もしない晴天の霹靂とは、正にこのことだと思っております。

現在、公民館を中心として由良歴史年表編纂が進められています。過去永年に亘り研鑽を重ねてこられた先輩の思いを少しでも多く正しく後世へ伝えることが私に課せられた責任と自覚しています。未熟ではありますが、地区の皆さんのご理解とご支援を切にお願いいたします。

森鷗外「山椒大夫」文学碑は昭和54年1月に建立されたもので、由良協公園にあります。



絵：みもり あきら

# アーアツ！ 未だ十日目か！

由良自治連合会会長 藤本繁光

由良小学校・栗田中学校入学式が済み休息の矢先、駅道で蜂の羽音と自宅に着電。急行、桜花満開の中に羽音が。しかし分蜂ではない。桜の幹を見て回り、

蜜蜂の出入り場所を発見。「危険・ミツバチの巣あり」と注意

書きを表示。早速市役所へ通報、2～3日の間に処置すると返事を貰う。その日の夜、地区民から連絡あり。海岸に鳥の死骸が多く打ち上がっている。これも

市役所へ通報、回収し検査結果「危険病気は発見せず」の情報を貰いひと安心。翌日夜は「てんころレース」の開催を検討。七月四日の日曜日に開催と決定。

以上、由良自治連合会会長に就任後十日間の動きでした。課題のため息は、これらの動きを踏まえての実感です。

ところで、由良のコメは旨い

と聞きます。由良が岳の美味水を直接田に引くからです。みか

んや柿・山椒の栽培も順調です。ところが栽培者は「今の農業は

なー」と直ぐ言います。では、由良の農産品を加工し、付加価値を付けて売りましょう。由良

産夏みかん利用のマーマレードの製造販売等のように。

また、丹後由良駅裏の葦原の荒地問題も重大事項です。最良

解決を皆さんで考えましょう。有害鳥獣の問題もあります。猪問題について電柵処理は相手が学習し恐怖心無し。由良全域

に何らかの処置が必要です。旅館業など観光方面を見ますと、客の減少が問題と聞きます。

料理にも何らかの付加価値を付け、インターネットやHPなどで予約販売をしませんか。こんな具体例がありました。

由良では独居老人が七十人弱、老夫婦での生活者が多々あります。そこで、ボランティアで格

安弁当を作つてその家庭へ宅配、安否確認システムを計画し、京

都府から「少しなら補助金を出す」と助言を受け走り出した矢

先、弁当を作る施設が無く頓挫。公共施設が多いのに使える施設

が無いとは何という無情。

足湯の話。井上宮津市長は由良駅通りのJA施設を利用し、

塩水利用の足湯を住民の皆さんや観光客に提供したい意向です

が、採算割れの可能性あり、また、維持方式に「毎日誰が塩水採取に行くか」など、今ひとつ

乗り切れない事情が発生します。由良は国道で来るなら宮津市

への入り口だが、その国道が非常に狭い。住民が健康で安全・

安心な生活が出来る事を宣言する宮津市が、歩道付きの広い道路に改修、宣言どおりの生活が

出来る配慮を要望します。由良小学校統合問題も喫緊に

結論が必要な事項です。

利用すべきは、京都府立大生による由良での勉強結果を有効活用したい。今後彼ら学生が将来大会社の幹部になり、由良の

子供がその会社へ就職し「丹後由良へはよく行った」と懇意に

なれば、あるいは得意先廻りの際、今の学生と得意先で出会った時は由良の子供達にかなり有利になるでしょう。

頑張りうの二点目。本年も第4回てんころレース大会を、実業

会・観光組合を中心に、住民全員が資金を出し合つて協働して開催します。折角第3回までの成功

を更に発展させましょう。レース当日は、多くの皆さんの応援集合

により、近隣都市の人々に「由良で面白いことをやっているから見に行こか」と言わせたいものです。

「人任せでは何も動かない」皆が互いに協働し（市長の好きな言葉）丹後由良をより良く仕

上げようではありませんか。格調高い文章を書き上げ、会長就任初頭挨拶の筈が雑感にな

ってしまいました。失礼。

失礼。

# ふれあい、つながり、ささえ あうことができる児童の育成

由良幼・小 校園長 山本文雄

四月、花ことば「夢と希望」

のコブシの白い花が咲きはじめ、  
かわいいチューリップの花もみ  
ごろとなってきた佳き日、新入  
生が十名も入ってきました。  
保護者、新入生の皆さん、お  
めでとうございます。

学校も由良の里も元気になり  
そうです。元気にしたいです。  
広い運動場、楠につくった長  
い、大きなブランコ、ターザン  
ロープ、雨が降ったらかがむこ  
とができるはまの子トンネル、  
校外に出ると、まだどじょうも  
メダカもとれ、山菜・海草も豊  
富な野山も浜・海もあります。  
この豊かな自然を友として、  
いっぱい遊んでください。  
本年度の学校教育目標を「ふ  
れあい、つながり、たすけあい  
のできる児童の育成」と決めま

した。

友だちと自然といっぱい遊ん  
でつながりを深めてください。  
勉強も大切ですが、遊ぶこと  
によって体もじょうぶになり、  
人とつきあうときのかかわり方  
を学ぶことができます。

つながりができることによっ  
て、自分のことだけでなく、友  
だちのことを思いやる心も育ち  
ます。  
クラスの友だちとつながりが

できると、たすけあうこともで  
きます。  
自分の思ったことや、考えた

ことがなんでも言いあえ、学習  
も深まり、学力も伸びていきま  
す。

由良小学校の一年生の元気と  
やさしさで由良の里に活気が出  
ることを願っています。

私は小学校だけでなく、由良  
幼稚園、地域もやさしさとなす  
けあいの広がる土地にしたいと  
思います。

保護者の皆様、お子様の入学  
おめでとうございます。

本日より由良小学校の児童と  
して六年間お預かりいたします。  
これからの人生で、人の中で  
生きていくための基本中の基本  
である「ふれあい、つながり、  
たすけあいができる児童」を育  
成していきます。

保護者の皆様には、家庭の責  
任である「あいさつ」「早寝早起  
き」「朝ごはん」の徹底をよろし  
くお願いします。

また宿題がなくても、テレビ  
を消しての本読みは毎日しまし  
よう。そしてふれあいタイムを  
つくってください。おふろにい  
つしよに入る、耳あかそうじを  
してやる、つめきりをおしえて  
やる、そい寝もしてみる、スキ  
ンシップのおんぶにだっこをし  
てやる等々ありますが、できる  
ことをしてやってください。

地域の皆様、十名は由良の宝  
です。この子たちが由良にもど  
つてくるような教育をしなくて  
はならないのではないでしょ  
うか。

保護者の皆様が由良の良さを  
知り、由良にほれて、地域の中  
がふれあい、つながり、ささえ  
あいのでつつまれることだと思  
います。

今の若い者は価値観がちがつ  
ているのであれば、その価値観  
をもとにもどしてやってくださ  
い。

でしゃばったことを申し上げ  
てすみませんでした。

それでは、新入生の前途を祝  
して式辞をおわります。

(二十二年度入学式 式辞より)



絵：みもり あきら

## 子供達の元気な姿を

栗田中学校PTA会長 大森 兵 吾

由良地区の皆様、日頃より栗田中学校のPTA活動に御協力いただきましてありがとうございます。子供達が中学校で元気に活動できるために、資源・ゴミ回収や賛助会員として御支援・御協力をしていただき、本当に助かっております。

子供達の数が減り、それに合わせてPTA会員数も減少して来ている昨今、地域の方々のお力添えをいただいで「子供達の元気に活動する姿」があると思っています。少子化の進む中、由良小学校が「合併に!!」という声も出ており、栗田中学校でもクラブ活動部数が減少する他、今後どうなっていくか気がかりな所です。

しかし、子供達は人数が少なからといって意気消沈している訳ではなく、むしろ自分達の

## 心をそろえる

由良小学校・幼稚園PTA会長 森 田 耕 二

中学校に誇りと自信を持って、過ごしてくれている様に思います。勉強にクラブにと大きな中学校に負けない頑張りや活動を

見せてくれていきます。どうぞ体育祭や文化祭他の行事の時には、子供達の輝く姿を見に来てやっていただきたいと思えます。

近年、自動車道の整備が進み京都北部地域も便利になった反面、車に乗った見知らぬ人の声かけ等も増え、物騒な時代にもなってきたとあります。子供達の安全と安心を確保していくには地域の力が大きな力となります。最後にになりましたが、今後共、由良地区の皆様の一層の御理解と御協力で、子供達を温かく見守ってやっていただきます様お願い致します。御挨拶とさせていただきます。

冬の寒さがいかに厳しくとも、春は必ずやって来ます。寒さが厳しければ厳しい程、春が待ち遠しく、桜が恋しくなります。

その満開の桜のもと、平成22年度がスタートしました。

わずか26人の在校生にあつて、10人もの新一年生を迎えることができたことは、学校にとつても大変喜ばしい限りです。

由良小学校は全校児童36人の小規模校ではありますが、地域住民の皆様との協力を得ながら、体験活動を中心とした「ふるさと教育」にも重点をおいていきます。由良地区の自然環境の素晴らしさは今さらふれるまでもありません。

私が大好きで一番心落ち着く由良の風景があります。それは『校庭から見た由良ヶ岳』です。急激に変化を遂げている社会

の中で、その姿は私の子供の頃から、いやそれ以前から変わっていないことでしょう。

秀ずる山の姿もて

果てなき海の心もて

と校歌にあるように、由良で育った子供達は「由良ヶ岳」のごとく堂々とどっしりと構え、「日本海」のごとく大きな夢を抱き続ける人間に成長してくれることを願ってやみません。

世の中がどんなに変わろうとも、子育ての基本は家庭であると思つていきます。京都府PTA協議会は「教育の原点は家庭」との自覚のもとに、家庭が本来果たすべき役割を自らの行動で示さなければならぬとしていきます。

ほんの些細なことでも大人が「できることを無理をしないで手を抜かず、一生懸命に取り組む」

この様な背中を子供達に常に見せることで、思いは必ず伝わります。「大人が変われば子供も変わる」のです。

表題に「心をそろえる」と記しましたが、この言葉は私が子供達に示し続けている親の背中なのです。

6年前、ある講演会で講師の先生がこの演題で講演をされました。普段から会話が聞きづらい環境の私ですが、深い感銘を受けた唯一の講演であるといっても過言ではありません。結論から申しますと「優しい心を育てるには優しい心をかけること」ということです。講演の中で、「はきものをそろえる」という一編の詩を紹介されました。はきものをそろえると

心もそろろう  
心がそろろうと  
はきものもそろろう  
ぬぐとぎにそろえておくと  
はく時に心がみだれない  
誰かがみだしておいたら、  
だまっつてそつと

そろえておこう  
そうすればきつと  
世界中の人の心も  
そろうでしょう！

いかがですか？

毎日「できることを、一生懸命に」の精神で我が家の玄関のはきものをそろえ続けているのですが、残念ながらうちのはきものはまだ完璧にそろってはいません。でも「心がそろろう」日が必要です。必ず来ることを信じています。最後に、宮津市は少子化における由良小学校の統廃合期限を平成23年度末としています。本年度においては、自治連とPTAが主体となり協議を進め、この問題について由良地区としてまとめる必要があります。今後、会合の案内の際には、積極的なご参加をお願いいたします。



絵：みもり あきら

# 入学式の思いから

婦人会会長 小西雅代

由良地区の皆様には日ごろから婦人会活動に温かいご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

5月のGWは暑くてまるで夏模様と思っていたら、急に寒くなつて今度は霜注意報、胃腸風邪を引いたって言っている人もこの時期、体調管理が大変ですね。

この度、思いがけなく婦人会長の職を仰せつかり大きな戸惑いを感じています。もともとこのような職責を務められるものではないですが、副会長の濱野さん、庶務の酒田さん、会計の山田さんと一緒になつて微力ながら務めさせていただきたいと思つています。会員の皆様、そして由良地区の皆様には昨年同様のお力添えをいただきますよう、よろしく願いいたします。

す。

私が婦人会に入った頃は、由良全体、また宮本地区にもたくさん先輩会員さんがいらつしやいました。知り合いも無く、地域も分らなかつた私にとっては、行事のたびに声をかけてくださり、その頃はまだ仕事もしていませんでしたので、婦人会行事に参加することが楽しく、他の地域の方とも知り合うことも出来たことを思い出しています。

この前4月7日、由良小学校の平成22年度入学式に呼んでいただきました。私にとっては、娘の入学式（平成5年度）以来のものでした。10人の新一年生が元氣よく式に臨み、とても懐かしく、頼もしく思いました。式を終えて、娘の入学式の記録を見てましたら、新一年生は17



人、主人のとき（昭和37年）は確か31人やったでと言っていました。この50年で3分の1にまで減ったんだと改めて驚きを隠せない思いでした。

また、幼稚園のほうは入園式がないと聞かされました。お母さん方の多くが仕事をしておられ、保育時間が二、三にあつてきてないんだなって思い、今後のが心配になっていきます。

婦人会も、現在は多くの会員さんが仕事と家事、子育て、介護と忙しい毎日を過ごされ、また入会してくださる方も少なくなつてきています。無理なく楽しく参加できる婦人会にするにはどうしたらいいのか、今一度皆で考えなければ婦人会の存続

は本当に難しくなってきました。婦人会員の皆様、各種団体の皆様のお知恵をお借りしたいと思

います。婦人会が今年どれだけ地域に貢献、お手伝い出来るか分りませんが、皆で力を合わせて頑張りたいと思つていきます。ご理解とご協力をお願いいたします。



絵：みもり あきら

# 就任のご挨拶

由良子供会連絡協議会会長

中 垣 直 之

さわやかな初夏の季節となりました。

この度、由良子供会連絡協議会会長を務めさせていただきます。

とになり、責任の重さを痛感しております。力不足ではございますが全力で取り組んで参りますので宜しくお願い致します。

日頃は、子供会連絡協議会の活動にご理解ご協力を賜りましてありがとうございます。

由良地区において少子高齢化が急速に進んでおり、子どもの人数が減少の一途をたどっています。その為、子供会活動の運営が年々厳しくなっており、一部の行事については各地区合同にて実施することになってきています。

私も由良地区で育ち、子どもの頃の子供会行事は今でも心に良き思い出として残っています。その頃と今では取り巻く環境が大きく変わり、モノがあふれる時代となり、便利すぎる世の中が人と人の繋がりを希薄な関係にし、こころの成長場面が少なくなつていと感じます。又、少子化による影響で、子どもたちが切磋琢磨する環境が少なくなつていのではないかと思

ます。

子供会活動は異学年の子どもたちが集まり、みんなで力を合わせ、大人も一緒になつて取り組み、色々なことを学んでいただける活動になればと思います。地域の皆様方には、子供会活動への積極的なご参加とご意見を頂き、子どもたちの成長を見守つて頂きたいと思

います。ご報告をかねて、由良子供会連絡協議会が加入しております。宮津市青少年後援会連絡協議会が平成二十一年度をもちまして、加入団体等の減少により解散となりました。平成二十二年度は新たな会を立ち上げる期間として準備に入ります。今後の経過を見守っていきたく思います。

宮津市全体においても、少子化による子供会活動に影響が出てきています。由良子供会連絡協議会の今後の在り方を模索し、活動して行きたいと思

## 第44回

## 由良岳登山



## 由良がたけ登山

六年 森 田 浩 平

4月29日に由良がたけ登山がありました。

ぼくは、2さいの時から登っているそうです。

8時半に由良小に行つて話や体そうをし、おかしをもらつて登りました。ぼくはたけしくんとこのぼりしました。

坂道はじごくの道、まっすぐの道は天国の道などとぼくたちで名前を付けたりました。

初めは、ふつうの木で竹、すぎの木などいろいろな木があつて、ぼくは「あつ、木がかわつたで」などと言っていました。4合目くらいで休みました。

上に行くにつれて土ですべつたりねん土の土がありました。すこしすべつたのであぶなかつたです。

そしていっぱい水の所で一番でおりにいる人がいて、早いなあと思つていました。それから、いっぱい水の所に行きました。水が出ていたし、冷たくておいしかったです。

そしてちよう上に着くと人が少なかつたです。べんとうやおかしを食べて、西側に行きました。天の橋立がよく見えました。そしておりました。おりの時に校長先生につえを作つてもら

いました。すぐく下りやすかつたです。下りはノーストップでおりました。ぼくは170番でした。

## 由良がたけ登山

五年 岡 本 遥 菜

四月二十九日に由良ヶ岳登山に、はや人くん、あづさちゃん、夕紀ちゃん、いつせいくん、いつせいくんのおばちゃん、はや人くんのおつちゃんたちと、山に登るために、じゅんび体そうをして、スタートしました。

最初は、えらくないからと、わいわいしゃべつて登つていたけれど、だんだんとみんなつかれてきて、ペースがゆつくりになりました。足にふたんがかかつてすぐくいたくなりました。五合目からは、わたしとはや人くんは、みんなよりペースが速かつたので、先に休けい場所を見つけたりする役をしました。そして、わたしとはや人くん

た。つかれたけどきれいな景色が見れてよかつたです。

は、ペースがだんだんと速くなりみんなが見えなくなりました。そして、やつとちようじようにつきました。ちよつとましたら、ほかのみんなもきました。そしてみんなでお弁当を食べました。あせかいて登つたあとおべん当は、とてもおいしかったです。

その後、景色を見ました。家が小さく見えて、海がきれいです。こし太陽で光つていました。このちようじようで見ると、よけいきれいでした。そしておりに186ばん目でした。登つてよかつたです。来年も登りたいです。

# 山は楽しい

五年 小林美香

4月29日に、由良がたけに登りました。

8時30分ころに由良小学校に集まり、ラジオ体操そうをして出発です。初めの方は、あまりつかれなかつたけど五合目ぐらいからつかれてきました。でも、自分に「もうちよつと、もうちよつと」とはげましながら、がんばって登りました。

# 由良がたけ登山

五年 中西夕紀

四月二十九日に由良がたけ登山がありました。わたしは、由良がたけの登山は、今年で、四回目です。

始めに、由良小学校に集まっ

キョ」となっていました。きれいな声で「がんばろう」と元気が出ました。

ちようじようでは、美しい海と由良の村がみえ、そこでおべんとを食べ帰りました。じゆるじゆるしたところもあり歩きにくかつたけど、ちようじようできれいな風景が見えてよかつたです。また、登りたいです。

て体そうをしました。たくさんの人たちがいました。今年は、同じ学年の人といっしょに登りました。

いよいよ登り始めます。山は

雨でにゆるにゆるしていて、歩きにくかつたです。おちばもたぐさんあつて、どこが道か分らない所もありました。今年は、たくさんきゆうけいしていました。

みんな「つかれるなあ。」と言いながら、いっしようけんめに歩きました。

やつとちようじようにつきました。ちようじようについた時は、すつきりしました。やつとまちどおしかつたおべんとうが食べれます。とてもおいしかつたです。みんなでおかしを交かんをしたり、しゃしんをとつてもらつたりしていました。知ら

ない人もたくさんいました。ちよつとゆつくりして、下りまし

た。上がる時よりも下りる時のほうがたいへんでした。にゆるにゆるしていて、ころんだりしていました。それだからしゃべるひまなんてひとつもありませんでした。下りは2回ぐらい休みました。二つに道が分かれていた時、「この道はおつたらあかん。」と言つて遊んでいました。やつとふもとにつきました。今年、百八十五番でした。がんばつて、登れてよかつたです。来年も登りたいです。

平成21年度

宮津市人権標語コンクール優秀賞

咲かそうよ

勇気の花

思いやりの花

(中学校三年生)

# ぜっ景だあ

五年 濱野 颯人

四月二十九日に由良がたけ登山がありました。

由良小学校に八時半集合で体を温めて、おかしをもらって、はるなちゃん、あづさちゃん、ゆうきちゃん、ぼく、ぼくのお父さんとスタートしました。始めの一合目から三合目ぐらいは、えらくないので、みんな元気でしゃべりながら登りました。でも、後の方では、道もわからないし、えらくて、おそくなりしました。でも七合目ぐらいに来たら、休けいなしで行きました。頂上に着いて、景しきを見たらすごくいい景しきでした。つかれもふっ飛びました。おべんとうをみんなで食べました。おいしかったです。



「ぼく、のぼったよ」1歳8ヶ月の坊やの家族連れ

にも行きました。

下りはじめてから、ぼくとお父さんは、一年のいっせい君といっしょになり、五年女子とは、別行動になりました。

由良がたけ登山は、つかれたけど、すごいぜっ景も見れて良かったし楽しかったです。来年も登りたいです。

# 努力をむだにせず

五年 前畑 あづさ

四月二十九日に、友達といっしょに由良がたけに登りました。

体そうしてから登りました。登る前はすごくきんちようしていました。「どろどろですべったりしないかな。」とか、「木とか葉っぱだけがしたりしないかな。」などと心配でした。

そして、心配しながらも、登って行きました。

一合に約二回ほど休けいをしてたけど、休けいをしてもすぐに足がいたくなったりしました。

と中で、道がどろどろで、すべりかけたり、くつがきたなくなっていました。

どんどん登って、たくさん休けいしました。登る事によって、だんだんいやになってきました。くつもどろどろだし、つかれるし、もう帰りたいと思ったけれど、あとちょっとなのに、これ

までがんばってきた努力がむだになってしまうから、がんばって登りました。

がんばった末、やっと山頂につきました。すごくうれしかったです。

ついてすぐおべん当をたべました。おいしかったです。

帰りは、親せきと帰りました。とても、楽しかったです。あきらめようと思った事もあったけど、がんばれたのでよかったです。次の時も、登りたいと思います。

## 由良岳登山証明書 発行数

平成22年1月1日～  
22年6月4日まで  
400枚

由良岳登山  
(4月29日)  
187枚含む

# 平成21年度 北方四島ビザなし 交流訪問事業 参加雑感(2)

浜野路 岸田博司

(六) 国後島くなしり…古釜布ふるかまぶ(ユジノ)

クリリスク) 上陸

七月七日(火) 天気 晴

〔現地時間〕午後二時二十分

午前十時に上陸できる予定でしたが、古釜布湾から迎えに来てくれるロシア船の、艇はじけのスクリューに鉄線が巻きつくトラブルがあり、入域手続きが遅れ、上陸できたのは午後二時二十分でした。四時間二十分のロスタイムが生じ、午前中の半日は何もすること無く退屈でした。何

度も船の甲板に出て、陸から動かないロシア船のはしけを眺めながら、早く迎えに来てくれる事を望んでおりました。待つ事半日、艇が動き始め、だんだんと近づいて来て着船してくれま

した。艇はとても小さく、団員六十五名が乗れるのかと案じられました。もちろん…立ったままです。着岸地点に近づくにつれ、座礁したと思われる、錆びて赤茶けた鉄骨だけの廃船が多く見られ、撤去処理されたような形跡はありませんでした。又、着岸埠頭から少し離れた陸地には漁船らしき船が数隻陸揚げされており、その中に船先が尖った日本製の漁船らしき船が見られました。埠頭に無事着岸し、いよいよ上陸です。

ロシアの沿岸警備隊の女性のオフィサーが厳しく監視する中を、再び名簿順に艇から上陸しました。念願が叶い、ついに私は北方領土の国後島に初めて上陸することができました。北方領土訪問は初めての経験で、その後、見聞きした事の全てが目新しい事ばかりで、感動と感激の連続でした。

埠頭の駐車場は舗装されていなく、でこぼこでしたが、島民のロシア人が大勢、車で迎えに来てくれていました。団員はA、B、Cの3つのグループに分かれて、島内を視察する事になっており、私はAグループで漂流物調査と材木岩の視察でした。

(七) 13キロポイント海浜の漂着物収集と材木岩視察

〔現地時間〕午後三時

Aグループの団員三十四名は、車十二台で送迎して頂く事になっており、私たち三人はA7号車(座席の高いランドクルーザーでした)に乗せて頂きました。

運転手さんは身体は大柄で、気の優しいようなロシア人でした。コンニチハと日本語で挨拶して頂き、片言の日本語でロシア語を交え話してくれました。日本

語学校で勉強したというような事を話してくれましたが、我々三人はロシア語に弱く、意思疎通が出来ませんでした。途中、美しい山を見て指を差して、あの山の名前は何と言いますかと日本語や英語で聞いても全然反応が無く、山に関しては興味がないようでした。

概ね四十分程、山の中の広い道路(幅は約二〇〇二五メートル)を時速概ね七〇〇八〇キロのスピードで突っ走りました。道路は舗装されてなく、勿論セクターラインもありません。ブルドーザーで拡幅し、砂利をまいただけのような道路でした。砂利と砂埃で窓を開ける事は出来ませんでした。車中は蒸し暑く砂埃が入って来るので、タオルで口と鼻を覆って凌いでおりました。

やっと海の見える海岸に到着し、直ちにロープで海浜に区画を設置して、その中にある人工の漂流物の収集を実施しました。収集した漂流物にはプラスチック

ク製のロープや網が砂の中に埋もれていた物や、又発泡スチロール、ペットボトル等が多くあり、日本海の丹後地方、我が家の近くの由良海岸に漂着する物と同じ物が散見され、日本海を北上する対馬海流が国後島まで到達しているように感じられました。収集した漂着物を海浜で分別する予定でしたが、時間的に余裕が無く、船に持ち帰って分別し調査する事となりました。

#### 国後島の「南クリル行政府」

に表敬訪問していた、Aグループの別動隊が昼食の弁当を持ってきてくれ合流しました。弁当を食べ、ファッションショー見学のため、行政府ホールへ移動することになりました。

尚、この周辺の海浜は13キロポイントと呼ばれる所で、海岸の反対側の山側に有名な材木岩らしき岸壁があり、視察しました。

が写真とは異なっておりまして。ロシヤ人とその子供達数十名が、途中から漂流物収集に加わっていました。通訳様に聞

たところ、国後島の学校は六月末から夏休みになっているとの事でした。日本人とロシヤ人の合流、共同作業となりました。現地時間午後四時に送って頂いた同じ車(A7号車)に同じメンバーが乗り、行政府ホールへと向かいました。

(八) 行政府ホールでファッションショーとロシヤ民族衣装ショーを見学する

#### 〔現地時間〕

午後四時三十分～五時

A、B、Cのグループに分かれて行動していた団員全員がここで合流してホールに入る。ホールはすでに二百人以上の多くの老若男女のロシヤ人が集まっております。

ファッションショーは今回の交流団員の中に、北方領土の元国後島民二世の方がおられ、その方が現在東京でファッションデザイナーをしており、その方の肝いりで衣装を揃えて頂き、

また、モデルさんは国後島の女性十数名の方を、つてを頼りに集めたが苦労したと言う事でした。モデルさんはロシヤ人特有の色が白くて背が高く、目は大きくて鼻は高く、腰は細くて足の長い美人ぞろいでした。我々といっしょに見学した「南クリル」地区長や地区副行政長も、国後島にこのように美しい女性が居たとは知らなかった。と後の夕食交流会で述べられたそうです。

ファッションショーに続き、ロシヤ人の子供達による民族衣装ショーと踊りも見学する事が出来ました。我々団員のみならず、ロシヤ人の観客の声援と拍手も多く、盛り上がり大成功でした。今回の北方四島交流訪問事業の中で、最も友好交流に成果のあった事業であったと思われました。

このショーのために尽力して頂いた元国後島民二世の方、また、ショーの準備と演出の支援に協力して頂いた北対協の職員

の方々、並びに若い団員のサポートの方々にその労を多し感謝致します。有難う御座いました。

(九) 商店街への移動、商店視察と買い物をする

#### 〔現地時間〕

午後五時～午後五時五十分  
ショーの見学が終了後、急いで待機してくれている(A7号車)に乗り、近くにある商店街に向かう。商店街とは言うものの、女性のロシヤ人の販売員二人がいる小さな商店が四軒あるだけの、小さく纏まった集落でした。我々団員のために店をオープンしてくれたような感じでした。

商店の品目は果物、菓子、チョコレート、ワイン各種、ウオツカ等々ありましたが、果物等、生物の持ち出しは不可であったため、購入品目は限定されました。ワインをかう団員をいまして、土産物にと私を含めチヨ

コレートを買う団員が多かった様です。価格はすべてルーブル換算です。

事前研修会時(二・ホ・ロ)で希望者には、一人3000円で限度額として交換を申し出ていたので、ファッションショー終了後、ルーブルを受領しました。択捉島での買い物のため半額を残し、1500円分のルーブルを使いチョコレートを買いましたが、これが失敗でした。

# ご挨拶

由良駐在所 池内久也

私は、今年の4月1日付の人事異動により、由良駐在所勤務となりました。由良には、背後に由良ヶ岳がそびえ、日本でも有名な由良海水浴場があり、夏期には大勢の海水浴客で賑わう自然に恵まれた平穏な町であり、私は、このような素晴らしい由良地域の安全・安心なまちづく

択捉島の二日目が悪天候?となり、解が迎えに来てくれなくて上陸出来ませんでした。択捉島での商店視察や買い物は出来なくなり、残りのルーブルを使用する事が出来ませんでした。なお、国後島の商店街の店員様は二人とも日本語が通じなく、すべて通訳様のお世話になりました。再び送迎車(A7号車)に乗り「友好の家」に向かう。(つづく)

りを目指して、地域のみなさんとともに尽力しますので、よろしく願います。さて、私が赴任して、はや2ヶ月が過ぎました。各種活動を通じて由良のみなさんと顔を合わせ、少しずつ地域に馴染んできました。由良地域は、高齢化が進んでおり、高齢のご夫婦が

たくさん住んでおられます。

最近、新聞やテレビのニュースで、毎日のように「振り込め詐欺」という言葉を聞くのではないのでしょうか。犯人は、社会的に弱者の高齢者を狙った悪質、巧妙な手口で「あの手、この手」を使ってきました。この平穏な由良においても決して他人ごとではありません。

振り込め詐欺といっても様々な手口があります。

## ①オレオレ詐欺

電話を利用して親族、警察官などを装い、痴漢や交通事故の示談金などの名目で現金を振り込ませる。

## ②架空請求詐欺

郵便・インターネット等を利用して不特定多数の者に対し、有料サイト未払金名目で料金を請求する文書を送りつけて、現金を振り込ませる。

## ③融資保証金詐欺

実際には、融資しないにもかかわらず、融資する旨の文書等を送りつけるなどして、融資を

申し込んだ者に対し、保証金等を名目に現金を振り込ませる。

## ④還付金等詐欺

税務署員や社会保険事務所職員を装い、医療費や税金の還付金などが受け取れるなどと偽り、犯人の口座に送金させる。

などがあり、注意が必要です。

京都府下の振り込め詐欺の発生状況については、平成21年中の認知件数が120件、被害額約1億2千620万円、平成22年3月末までの認知件数が21件、被害額約1千120万円で、前年同期と比べると、認知件数は減少しているものの、いまだ被害は深刻な状況にあります。

振り込め詐欺は、日常生活のふとしたところにつけ込む悪質な犯罪です。みなさんが、振り込め詐欺の被害に遭わないためには普段からの心掛けが大切です。

騙されないためには、

①すぐに振り込まず、家族に相談・事実確認をする。

②心当たりのないものは無視する。

③家族の合い言葉を決めておく。  
④少しでもおかしいと思ったらすぐに警察に通報する。

ことが大事であり、これらを心掛けるようにして下さい。

振り込め詐欺は心の隙を狙った犯罪です。普段、自分は絶対に騙されないと思っていて、いざ自分の身にふりかかれば、とつさのことで、動揺するかも知れません。この時、冷静に判断できるかどうか、振り込め詐欺に騙されない分かれ道となるのです。いざというときに、冷静に対処できるように、普段

からの心掛けが大切です。

今後も、各種活動を通じて、情報発信をしていきますので、よろしく願います。

最後になりましたが、私が好きな「一期一会」という言葉があります。私がこれまで、お世話になった上司や同僚、そして、この由良に赴任したのも何かの「縁」だと思っています。この「縁」を大切にして、由良の安全・安心なまちづくりに尽力いたします。今後ともご支援、ご協力をよろしく願います。

## 由良人の気風とその結果と将来

中西 六右衛門

昭和三五年（一九六〇）私が由良に帰って来た当時、近所の先輩に色々話を聞く機会を作った。何度が話を聞かせて頂いたが、その中の一つに由良人の気風の話があった。

その気風が当時の由良の活力源であったが、一方で今の過疎でさびれた由良の原因でもあると近年痛切に感じる。その話とは、由良の主産業は北前船の船頭水夫集団であった事に起因す

る。

船頭集団は完全なピラミッド型の作業集団であった。その集団の全員が船底一枚下は地獄であり、板一枚を踏み外すと地獄へ落ちる、地獄へ落ちる仲間を救いたくても、自分も大変、たし救う方法もない：その中で自分の力だけで昇進せねば、何時になつても下働きで終わる運命が待っている。努力と言つても先輩に教えてもらえない事も無く、技術を盗む以外自分の物に出来ず、年功序列も無く先輩を引きずり落とす以外、昇進の方法は無い世界であった。

その結果、由良地区では本家・分家や親戚関係でも完全な下克上で、分家が本家の上になると賞賛され、親戚でも昇進しその地位をつかんだ者だけが甲斐性者として称賛されたと言ふ、そんな風潮が生まれたと云ふ、その結果、由良地区では他地区、特に東北の様な本家分家や一族制度が無い訳である。その反面、誰でも努力し力を付け

ば出世出来ると云う気風が生まれたと：話を聞いた。

この話、今思うと船頭集団制度が無くなり、各人が夫々に生きる道を考え、その中で由良地区は海水浴という観光関連で生計を立て、百軒近い民宿と小商売を営んだが、それには家族全員の大きな犠牲の上に成り立つたと思います。他方その境遇からの脱出を考え、その為には子供に教育を与える事が最良の道と：。それに取り組んだ結果、教育を受け力を付けた若者達の大多数は力の発揮場所、即ち仕事を求めて都市部へ就職し、その地で伴侶を求め永住する人が多くなり、出身地の由良には年老いた老人だけが残る結果となつているのが現状と云います。しかしその方々が夫婦、子供と共に由良に帰る程の魅力と活力は今の由良には到底無い訳で、それならば、これからの由良を如何にするか、街が生き残る為に今取り組まなければ、幼稚園入園児が殆ど無い現状、由良そ



のものが消える事になると危惧するこの頃です。

その為の解決策の一つとして、自治連合会長(昔の村長)、公民館、自治会、市議員等で由良の将来への「マニフェスト」(計画と行程表)を作り、それを地区民に公表し、地区民の協力の下に新しい由良創りに地区全体として取り組む以外方策は無いと思います。そしてその成果を地区民が共有しつつ、一つ一つ

と前進改革する事と思い、その組織作り、マニフェスト作りを提案します。

前回第138号にて、少々由良の将来取り組むことを書きました。が、より具体的な提案と方法を考えて思いましたが、公民館だよりの頁数の関係で途中にて筆を置きます。次回機会を頂ければ、マニフェスト作りから検証方法を提案したく思います。

## 魔鼻の怪！ 危険な潮流の交差点！

濱野路 大森 孝

(一)

奈具海岸の入り口の『魔鼻』の岬端には良い想い出もある。それは成年になって、昭和38年頃(30才代半ば)、団体旅行で宮崎県の『日向港』に、大阪南港から入港して、薩摩半島の『開

聞』の近くの『長崎鼻』で「観光ポイント」佇んで、『錦江湾』へ流れる潮流と、遙か太平洋の一望の海原を眺めやった。やや大きな岩に坐って、眺望限りない表面流を飽かず見ていた。その時は『大村湾』に続く海面に

想いを寄せて、往年海軍生徒として学んだ『針尾島』での16才を偲んでいただけだった。魔鼻を一まわり以上規模を大きくした長崎鼻の西の斜面で、温めていた少年時代の体験であった。長崎鼻にはもつと自然豊かで、色どりがあつた。奈具の魔鼻は長崎鼻を想い起こさせるものがある。

(二)

話を魔鼻に戻すと、この岬端の激しい潮流に怖い想いをした。それは中学2年生の頃の魚釣りで遭遇した。時、偶々、字『脇』の海浜通りの一(大岩・白岩の方角)へ向かう漂流の岩場で釣りをしていたのが、釣竿を流してしまった。あつという間に手元から離れて行くので、咄嗟に、飛び込んで回収しようとした。それがである。なんと、届かない。竿は流れて行く。私の身体は一向に進まない。昔話に出てくる源義経の弓流し。弱い弓

を敵方に拾われてなるかと、自分自らが身の危険を顧みず、浜辺へ戻った云々：そんな悠長なことを言っておる場合でなく：釣竿を見捨てざるを得なかった。しかし激流は慣れぬ私を容易に阻んだ。進むことも、岩場に反ることも叶わぬ中で、辛うじて生命をとりとめた。怖かった。なぜ戻れなかったのか。彷彿とした俚、成人して行つた。

(三)

後年、広島大学(広島高等師範学校二回生 19才)の時。下村彦一教授(海岸地形の第一人者。昭和初期に入つて岩波叢書で『天橋立』の砂嘴に係る論集を学界に発表された)の自然地理の講義で、一から教えられて謎が解けたかなと思う。だが、もつと早く識る必要があつた。一つは沿岸流と、その下層を月の満ち欠けによって、沖へ向かつて流れている反流がある。釣りをする時間帯は、夜ではないので風は海から浜辺へ吹いて

いる。

次に岬端の潮流の収斂線しゅうれんせんとも呼べる境界では、『渦』が2つも3つも発生している場合がある。巻き込まれる危険がある。

『新潟』あたりでは、月や太陽の引力による潮汐は略10ほぼ糧センチとされる。魔鼻周辺の潮差もさほど大きくはないが、沿岸流は一日2回(12時間25分ごと)浜辺へ流れて行く。満ちたり干いたりしながら。

私は下村先生の『海岸地形』を『出汐町』の教室で学び乍ら、生命拾いをしたと識別できた。

丹後を治めた一色氏は「公深」を始祖として永きにわたる合戦を続けて来たが、一族の一人は徳川幕府の影の家老として、永きにわたり徳川幕府を支えてき

#### (四)

過去、平成年間に入ってからでも遭難して生命を失った若者があった。その原因はもとよりさだかではないが、遺体の収容のためにその友人が、魔鼻近くで天幕生活を続け乍ら、野宿していた気の毒な在りし日の姿を彷彿とする。雨の日に濡れそぼたれて、崖から滴下する山水を受けて凌いでいた浴客の若者達は哀れを止めていた。呉々も注意を怠らずに楽しんでほしいものだ。(平成22年4月4日 記)

## 若狭越前海岸を歩く

(No.4)

港 四方 俊 一

たのであった。その子孫は各地で活躍し、四百家族にも及び五十年に一回一族の総集会を開催しているという。主に、九州・東海・関東に多いと云うことであ

った。さてさて、話は丹後・若狭を巡ることであり次に急ごう。

波静かな鳥居海岸・白浜海岸を後にして、国道27号線を東に若狭本郷に向けて歩む。左は大島半島、そして青戸入江、その入江を跨いで青戸大橋が架設されている。この橋は大島半島の先端にある大飯原子力発電所建設維持管理のため、関西電力株式会社によって架設されたと云う。

青戸大橋の北東にある半島が内海外半島であり両半島の内海が小浜湾で、古代より天然の良港として大陸からの舟が行来した。

日本海側を見てもみるとこれ程の湾内は他にはない。大島半島の先端にある鋸崎のこざきから内外海半島の先端にある松崎迄二阨五百米である。この小さい外海との出入口が、小浜港、和田港、阿納あのう尻三港を發展させていた。明治維新、小浜藩は大島半島の赤礁あかぐり崎に大砲六基を据えたのであった。日本海から異国船が侵入してきた時、一番狭い水路を通ら

なければ小浜に近づく事が出来ない立地条件の良い所であった。昔から大陸から海流に乗って、

人が、貢物が、文化がこの狭い水路を通って小浜に入り、それが鯖街道を通って都へ運ばれたのであった。私は今「大飯町青郷」を歩いてる。北西は大島半島、東は小浜市、南は名田庄村、西は高浜町に囲まれた国道27号線の歩道上、まことに天気良く快適な旅である。さて、大飯町の八割が山林で、町域を北東に流れ本郷で青戸の入江に注ぐ全長十五軒の河川流域が農業地帯である。その川は「佐分利川」で河口の所が青郷である。例にもれず明治二十二年(一八八九)の町制施行、昭和三十年(一九五五)の合併で本郷村と佐分利村と大島村が合併して大飯町となり現在に至っている。ここにJR小浜線の「若狭本郷駅」がある。「本郷」という地にも歴史があった。時を遡ること八百年余前の建永元年(一一〇六)

初めてこの地の地頭になったのが「本郷朝親」である。「若狭国志」編者・稲葉正義 寛延二年（一七四九）に記されていると云う。その出自第六二代皇子具平親王を祖とする。つまり村上源氏の始祖となる人で、その子孫に「朝親」がいた。彼は公家の血統から初めて武士になった人であり、將軍源実朝によって「朝親」と称して本郷地頭となつて若狭に来たのである。以来明治維新に至る迄、時の政権に従い、この本郷の地を死守してきた。ある時は一色方、ある時は武田方、又ある時は織田方、豊臣方、徳川方と渡り、最後の本郷泰固は徳川家慶公（一八三七）の小姓頭（江戸幕府では若年寄の支配下に有り、將軍の日常雑務の処理に従事した）を務め、駿河国富士郡川成島藩主（静岡県富士市、二千石）として、更に一万石へと出世したが、嘉永五年（一八五二）御役御免、差控となり藩は二年で消

滅となつた。その後本郷泰清が明治二十年（一八八七）頃迄旧領地（本郷）に留まり、旧幕臣を受け入れ、三椏栽培（和紙の原料）に尽し、紙の殖産振興に励んだ功績大きく富士製紙誘致に尽し、業績は数多いと云うことであつた。足は国道27号線歩道を歩くが車輛の通過が激しい。八ヶ崎を越せば岡津で、ここには製塩跡地を遺跡としてレジャーボートが多く有り、遠目では判然としない。先を急ごう。加斗から片江鼻に出て小浜湾沿いを歩く時は太陽が高く昼時であつた。荒木集落の前の浜で昼食の弁当を頼張る。向いに浮かぶ蒼島（面積八二〇平方米、高さ三九米）であり、何でも無い小島に見えたが、この島に四〇科七種類の植物が自生して、中でもナタオレノキは日本海側の北限となつている。これらは「蒼島暖地性植物群落」として「国指定天然記念物」と云う。眺めも天候も良く「勢浜」

に向けて歩くに申し分なし。「勢浜」を過ぎると「勢峠」、ここは昔から大飯側と遠敷側の境界で数多くの合戦が行われた所、反対側の海岸沿いに小浜市街に入る。海岸の波懸鼻を廻ると緑の多い小浜公園が展開し、海辺に面して国民宿舎小浜ロッジがある。さてさて歴史の深い「小浜市」若狭のほぼ中央に位置し、北は海に面し大島半島と内外海半島に抱かれた小浜湾が広がる。海岸線は若狭湾国定公園に含まれ、その内、内外海半島周囲の約六軒は奇岩奇景が連続、壮大な景観が見られる為、「若狭蘇洞門」と名付けられて国の名勝に指定されている。市域南部は百里カ岳を主峰とする連峰が東西に伸び山岳地帯を形成し、東部は箱ヶ岳の山脈が北に走つて先端が若狭湾に張り出す田島半島の黒崎・獅子ヶ崎に至る。西部は飯盛山西側の稜線が南北に走る。これらが東から西へ小浜市街地を囲む。三方町・上中町・滋

賀県高島郡・遠敷郡名田庄村・大飯町との境を成している。「遠敷」とは国学者伴信友（小浜藩士、江戸後期国学者、一七七三〜一八四六）が『若狭旧事考』において「さて、遠敷と云う義（このころ）は美しき丹土（赤土）の出る所多し、故に小丹生といふ」と書いてある。又「続日本記」によると元明天皇（七〇七〜七一五 第四三代女帝）に官命が出され「小丹生」から「遠敷」に変えられた。しかも平成三年（一九九一）には郷土史研究家と専門家によつて、遠敷の山中で古い洞窟が発見され「辰（朱）砂」が採取された上、水銀含有が証明された。このことによつて「丹生は水銀の産地」であり、なおかつ「遠敷は本来、小丹生」であつた事が実証された。又「おにゅう」に「遠敷」の字を当てたのは「遠くまで黄金を敷き詰めた秋の実りの豊かな土地」の意と云う説も有るくらいである。「古代」八世紀には国

分(東小浜)に若狭国分寺が創建された。奈良時代の国衛(政務を執った役所)は北川と国道27号の間の府中に有った。国衛と若狭国分寺はほぼ南北に位置して有り中心的位置に有った。そして若狭彦神社をはじめ十座の神を祭神し、寺院も古い伝承を有するものが多い。神宮寺は和銅年中(七〇八〜七一五)に、羽賀寺は靈龜二年(七一六)、妙楽寺は養老三年(七一七)、谷田寺は養老五年(七二二)、多田寺は天平勝宝年中(七四九〜七五七)、明通寺は大同元年(八〇六)に創建の伝承を残している。若狭は平安末期には平家一門の知行地(支配地)となり、国司(地方行政官)は平経盛であった。治承四年(一一八〇)に始まった源平争乱には国衛の役人、稲葉時定らが反乱を起し、源氏に加担したとある。中世の小浜は若狭における政治・商業の中心であったと云われている。建久七年(一一九六)八月、稲葉時定は所領を

没収され、鎌倉幕府より津々見忠末が若狭にやってきた。元弘三年(一一三三)鎌倉幕府が滅亡し、南北南朝には斯波、佐々木、桃井、大高、山名、細川の各氏が守護となつた。貞治五年(一三六六)一色範光が守護として、若狭に入り西津庄(小浜市北塩屋)に守護所を置いた。一色範光については昨年六月発行(136号)の公民館だよりに記載したので除くが室町幕府(足利幕府)の有力大名であり、將軍足利義満・足利義持と深い繋がりが有つた。故に一色氏は京の街で將軍を補佐する四職の地位に在り、それは大変な勢いであつたが將軍足利義教の勘気に触れ、一色義貫は打たれ丹後に押し込まれたのであつた。その後、甲斐の武田の流れをもつ武田一族が安芸から任命を受けたのであつた。そして豊臣秀吉の時代迄若狭の守護として丹後の一色氏、又、越前の朝倉氏と永き争乱を行うのである。その争乱も天正元年

(一五七三)に越前朝倉氏が滅び小浜に帰還できたのであつたが、小浜城は織田方の武将の支配する所となり、神宮寺の神官として治まるのであつた。天正十五年(一五八七)丹羽長秀に代わつて浅野長政が若狭に入部してきた。そして慶長五年(一六〇〇)京極氏が領主として若狭に入つてきた。『京極氏』第五九代宇多天皇皇子敦実親王を租とするが、佐々木家から十二代で京極氏に別れる系統であり、二八代高吉に高次と高知がある。高次は小浜に出世し、高知は丹後(田辺)に封じられた。高次は京極家二八代の高吉と浅井長政の姉お慶(後の京極マリア)との間に小谷城(滋賀県湖北町)内で生まれた(二五六三)。京極家再興の悲願を背負つた高次は、六才で信長のもとに人質として差し出され、十一才で近江奥島に信長より五千石を賜り、成人後の本領安堵を約束されたのであつた。しかし高次二十才の頃

本能寺の変で信長が倒れ、高次は明智光秀に加担し秀吉居城の長浜城を攻める。そのため秀吉時代は秀吉に追われて、姉(童子)の嫁ぎ先の若狭後瀬山城(田元明を頼つたが、元明は宝幢院で殺され、勝家も殺されて遂に流浪の身となつた。そうこうしているうちに姉童子(元明の妻)が秀吉の側室となり、その必死の願いが功を奏して高次は許されて、近江高島郡に二阡五百石を与えられたのであつた。その後の高次の出世はトントン拍子で、さらに五阡石加増され、その後大溝城(滋賀県高島市)一万石、近江八幡山(滋賀県近江八幡市)二万八阡石を与えられ、わずか十一〜十二年で大津六万石に出世という具合であつた。大溝城主の時、秀吉の仲介でお初(後の常高院、淀の妹)を娶っている。さして戦功もないのにこのように出世したのは姉童子が秀吉の寵愛を受けていたことが大きく、周囲からは女

性の「尻の光」で出世したという意味で「ほたる大名」と云われていた。その後、秀吉亡き後の関ヶ原の合戦では土壇場で徳川方につき、籠城して豊臣方一万五阡の兵を関ヶ原に向かわせず釘付けにした。その功績を認められて、家康より若狭小浜八万五阡石を与えられたのである。小浜での高次の功績は二つある。一つはそれ迄の後瀬山城を廃して、新たに雲浜の地に小浜城を築いたこと。南川と北川と海で三方を囲まれた水城であった。さらに内堀もあって、そこには海から舟で入れる「舟入」があった。次に慶長十二年（一六〇七）には町割を行い、町の数は四一町、東西二組に分けられ、税負担する家数が一二三七軒であった。そして西津と侍屋敷を作ったのであった。高次は小浜に来て十年、四七才で亡くなるが二代目忠高は十七才で父の後を継ぎ、大阪夏の陣・冬の陣に参戦するなどの後、寛永十一年

(二六三四)松江藩二六万四阡石へ移封となる。ところが彼は四五才で急死してしまう。本来ならばそれで他家断絶だが、高次の大津城での働きなどが考慮されて、高次の次男高政の子高和を跡継ぎとして断絶はまぬがれた。しかし禄高は減らされて大津の時と同じ六万石で竜野(兵庫県たつの市)へ移され、さらに丸亀(香川県丸亀市)六万石へ移封となった(寛永十四年一六三七)。丸亀京極藩は高和以降、七代の領主が続いて明治を迎えた。京極高次の正室であった常高院が建立した常高寺(小浜市)と、常高院にお仕えしていた七人の侍女方が出家して出来た七ヶ寺の尼寺については、明治になる迄京極家の管轄下に置かれており、三人の京極藩士が常駐していたと云うことである。それにしても丹後宮津藩の京極家は、高次と兄弟である高知が丹後宮津(十二万三阡二百石)を得ていたが、元和八年(一六二

二)八月、五一才で亡くなり、子高広が跡を継いだ。その際高広は十二万三阡二百石の内、自らは七万八阡二百石を確保して、高知の側室の子高三に三万五阡石を与え、養子高通に一万石を分与した。田辺は高三、峰山は高通、宮津は高広と云う様に三分割したのであった。その後田辺の京極氏は豊岡に移り、峰山の京極氏は明治維新まで峰山に定着したが、宮津の京極高広は寛文六年(一六六六)親子関係不和を幕府に上訴し、幕府(家綱)の仕置を受け、京極家の取り潰しにあうのである。このように小浜の京極氏は「女の尻」で出世するが、宮津の京極氏は親子二代で潰れた。さて話を小浜に戻そう。国民宿舎小浜ロッジの横に小浜公園があり、山頂は展望台となっている。展望台から市街地と小浜湾が一望できる。又、明治の歌人山川富美子(一八七九〜一九〇九)の歌碑がある。山川富美子は与謝野鉄幹に

師事し「明星」で活躍し、歌集「恋衣」を発行した。彼女は情熱的な歌人で、与謝野鉄幹に恋をするが与謝野晶子に敗れたのであった。又、潜水艦の沈没によって殉死した佐久間勉大尉の像もある。七二才以上の人なら国民学校で先生から話を聞き、感動したものである。当時の軍国主義教育には最高の材料であった。佐久間艇長は日本最初の潜水艦の艇長として乗り組み、瀬戸内海の広島と山口の沖合いで試運転中に沈没して浮上できなかった。彼は天皇陛下から預かった潜水艦をこのような形で無くし、更に部下の兵士の命を救うことが出来なかつたことを詫び、手帳にぎつしりと記録し、酸欠で部下共々亡くなった。先生は言った「皆さんも大日本帝国陸軍、海軍に入り、女子は看護婦として天皇陛下のお役に立つのですよ」軍事教育は厳しいものであった。公園にはまだまだ多くの石碑が建っている。梅

